

2012 年 2 月の東北地方の天候

【 2 月の特徴 】

○気温はかなり低かった

○東北日本海側の記録的な積雪

（１）2012 年 2 月の概況

この期間、シベリア高気圧、アリューシャン低気圧とも強く、西高東低の冬型の気圧配置となる日が多かった。断続的に強い寒気が流れ込んだため、東北地方は気温がかなり低くなった。東北日本海側では雪の日が多く、記録的な積雪となったところがあった。東北太平洋側では晴れの日が多かった。

月平均気温は東北地方でかなり低い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北地方で平年並。降雪の深さの月合計平年比は東北日本海側で 97% と平年並、東北太平洋側で 113% と多い。

（２）各旬の天候経過

上旬：期間のはじめと終わりは強い冬型の気圧配置となった。期間の中頃に本州の南岸を低気圧が北東進し、暖かい空気が流れ込んだため気温の変動が大きかった。東北日本海側では曇りや雪の日が多かったが、期間の中頃に雨の降った日があった。東北太平洋側では沿岸部を中心に晴れたが、期間の中頃は曇りや雨となった。

1 日から 4 日にかけてと 8 日から 10 日にかけては、東北日本海側で大雪となったところがあり、7 日は福島県で大雨となったところがあった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。

中旬：この期間、冬型の気圧配置となったが、期間の中頃と終わりは高気圧におおわれた日があった。東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。

11 日から 12 日にかけてと 17 日から 19 日にかけては、冬型の気圧配置が強まったため気温が低くなり、東北日本海側で大雪となったところがあった。

平均気温は東北北部で低く、東北南部でかなり低い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。

下旬：この期間、低気圧と高気圧が交互に通過し、低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置となった。天気は周期的に変わったが、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。

25 日は本州の南岸を進む低気圧の影響で東北太平洋側で大雪となったところがあった。26 日から 27 日にかけては強い寒気が流れ込んだため、東北日本海側を中心に大雪となったところがあった。

平均気温は東北地方で低い。降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。日照時間は東北北部で多く、東北南部で平年並。

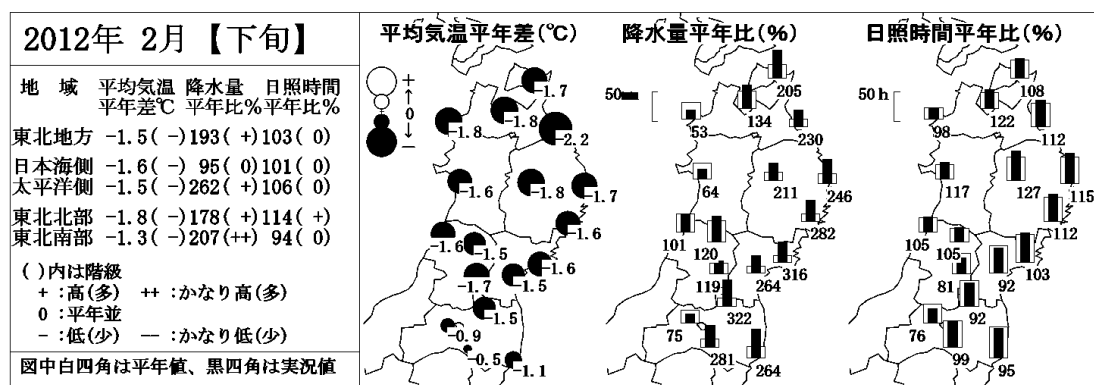
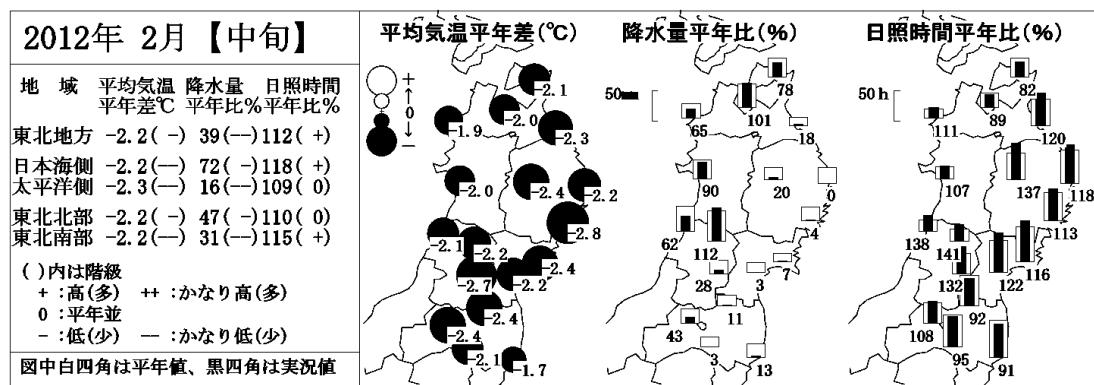
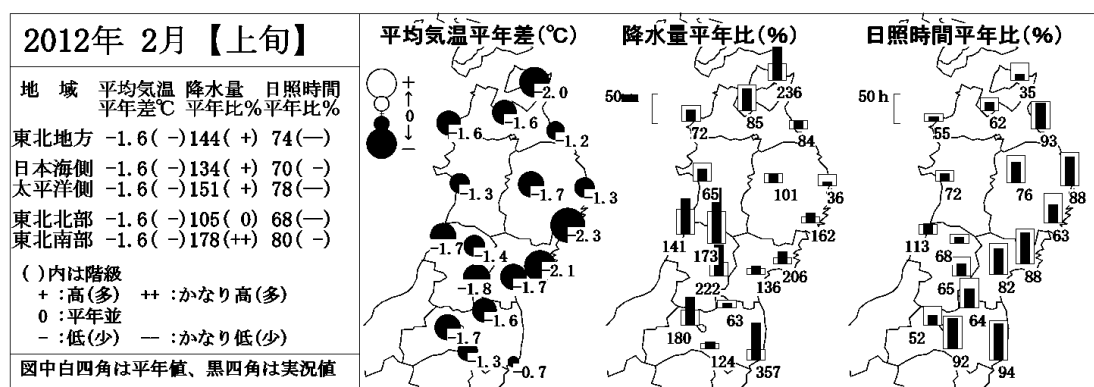
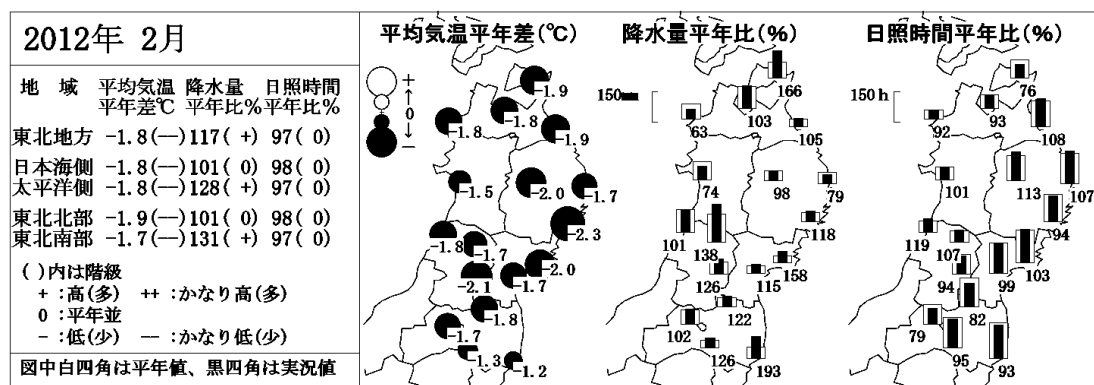
（注）気候統計値は、東北地方にある 17 地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています（速報値）。

細分地域については 2 ページ目脚注を参照して下さい。

気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は 1981～2010 年です。階級区分については、3 ページ目脚注 2 を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2012年2月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東三陸：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2012 年 2 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級	降水量(平年比)階級	降水日数	日照時間(平年比) 階級	降雪深さ(平年値)階級	最深積雪(平年値)階級
	(℃) (℃)	(mm) (%)	≥1mm	(h) (%)	(cm) (cm)	(cm) (cm)
青 森	-2.5 (-1.8) —	114.5 (103) ○	21	65.2 (93) ○	193 (176) ○	152 (107) +
深 浦	-1.7 (-1.8) —	49.0 (63) —	12	42.6 (92) ○	102 (92) ○	48 (41) +
む つ	-3.1 (-1.9) —	137.5 (166) +*	19	69.5 (76) —	184 (143) +	108 (62) +*
八 戸	-2.4 (-1.9) —*	42.0 (105) ○	7	139.9 (108) +	47 (75) —	19 (21) ○
秋 田	-1.0 (-1.5) —	65.5 (74) —	18	63.1 (101) ○	73 (108) —	42 (32) +
盛 岡	-3.2 (-2.0) —*	47.5 (98) ○	7	144.3 (113) +	65 (74) ○	39 (35) ○
大 船 渡	-1.2 (-2.3) —*	53.5 (118) ○	7	129.1 (94) ○	49 (23) +	15 (9) +
宮 古	-1.3 (-1.7) —*	47.5 (79) ○	6	163.0 (107) ○	35 (55) —	22 (26) ○
仙 台	0.3 (-1.7) —	44.0 (115) ○	6	150.3 (99) ○	32 (23) +	13 (11) ○
石 巻	-0.8 (-2.0) —*	55.5 (158) +	8	168.0 (103) ○	34 (20) +	13 (12) ○
山 形	-2.0 (-2.1) —*	79.0 (126) +	8	92.6 (94) —	96 (125) —	97 (45) +*
新 庄	-2.4 (-1.7) —	191.0 (138) +	22	61.9 (107) +	237 (217) ○	186 (120) +*
酒 田	0.1 (-1.8) —	115.5 (101) ○	18	70.2 (119) +	115 (98) ○	64 (26) +*
福 島	0.4 (-1.8) —*	54.0 (122) ○	8	117.0 (82) —*	43 (57) ○	18 (17) ○
若 松	-1.8 (-1.7) —	73.0 (102) ○	11	78.0 (79) —	120 (142) ○	58 (48) +
白 河	-0.5 (-1.3) —	48.5 (126) ○	5	144.8 (95) ○	34 (47) ○	15 (15) ○
小 名 浜	2.8 (-1.2) —	112.0 (193) +*	7	166.1 (93) —	()	()

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い (多い) ○ : 平年並 — : 低い (少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に * を付加した。この場合には

かなり高い (多い) かなり低い (少ない)

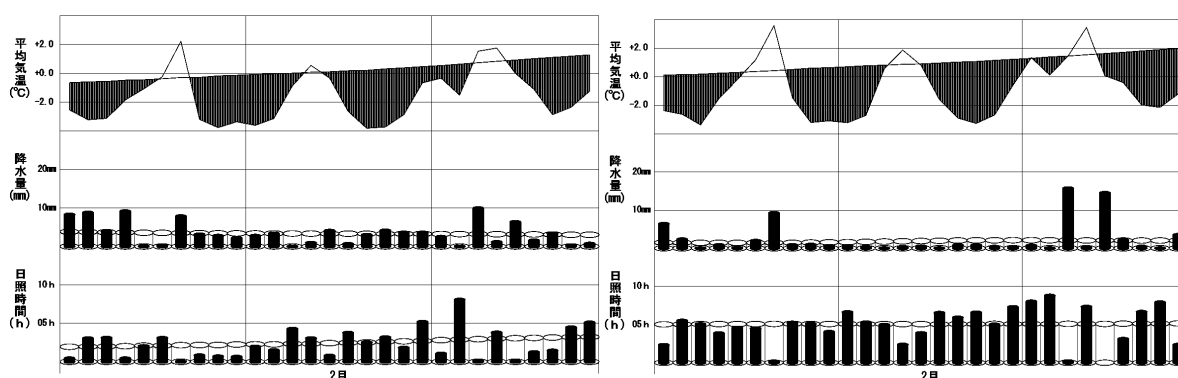
と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。) 付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2012 年 2 月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図

東北太平洋側の日別経過図

東河北部の日別経過図

東北南部の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

(6) 2012 年 2 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

3 位以内はなし

月平均気温低い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最低 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
3	大船渡	-1.2 =	-2.3	-2.2 (1984)	1964	1.1

月降水量多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間多い方からの順位更新

3 位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新

3 位以内はなし

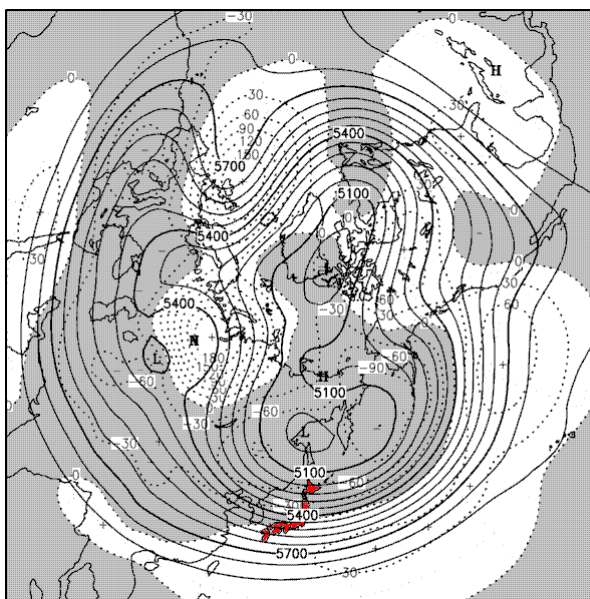
降雪の深さ月合計値多い方からの順位更新

順位	地点名	降雪の深さ月合計 cm	これまでの最大 cm (西暦年)	開始年	平年値 cm
2	大船渡	49	63 (1984)	1964	23

月最深積雪大きい方からの順位更新
3位以内はなし

(7) 2012 年 2 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、西シベリア付近で気圧の尾根が発達し顕著な正偏差となった一方、オホーツク海からカムチャツカ半島の東にかけて気圧の谷が深まり、寒帯前線ジェット気流が日本付近で南に蛇行した。日本付近は北日本を中心に負偏差となった。シベリア高気圧、アリューシャン低気圧は平年より強く、日本付近は冬型の気圧配置が強まった。東北地方は、寒気が流れ込みやすく、気温はかなり低くなった。



2012 年 2 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。
陰影部は負偏差（寒気に対応）。

(8) 2012 年 2 月アメダスの月最深積雪大きい方からの順位更新 (3 位以内)

県	順位	地点名	最深積雪	起日	これまでの最深 cm(西暦年)		開始年	平年値 cm
青森県	1	酸ヶ湯	496	28	464]	(2000)	1980	///
		大間	75	1	47	(1984)	1984	23
	2	今別	144	1	155	(1984)	1980	80
		脇野沢	127	27	147	(1984)	1984	70
	3	五所川原	123	27	163	(1986)	1980	83
秋田県		弘前	124	27	145	(2005)	1983	81
	2	鷹巣	112	1	123	(2006)	1980	73
	3	阿仁合	172	1	179	(2006)	1980	115
岩手県	2	一関	32	2	72	(1984)	1983	18
山形県	1	櫛引	144	12	131	(2011)	1983	69
		尾花沢	238	4	238	(2001)	1980	134
		左沢	144	4	135	(1984)	1983	72
		長井	166	4	165]	(1981)	1980	101
	2	肘折	413	28	414	(2005)	1983	312
	3	小国	249	13	279]	(1986)	1980	162
宮城県	2	古川	33	5	55	(2001)	1989	17
福島県	3	茂庭	64	4	72	(2001)	1993	40
		西会津	146	12	213]	(1981)	1981	90
		猪苗代	174	4	211]	(1981)	1980	67

(注) 値の横に] がある場合には、使用したデータに欠測等が含まれていることを示す。平年値の///は観測資料数が少ないため平年値がないことを示す。
観測開始または移転等により観測環境が変わった時から 10 年目以降の観測所のみ示す。

なお、櫛引（山形県）、尾花沢（山形県）、左沢（山形県）、長井（山形県）は年最深積雪の大きい方からの 1 位となっています。